



ひなんじょ ころが
[避難所で心掛けること]

た もの わ あ 食 べ 物 を 分 け 合 う

- ▶ ^{さいがいちよくご}災害直後は、^た食^{もの}べ物が^{ふそく}不足する
- ▶ ^{もちよ}持ち寄った^た食^{もの}べ物を^わ分^あけ合^のって^き乗り切る



食べ物を分け合う

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① 小学校に避難して、ようやく落ち着いたみなとくとみさきちゃん。夕方4時になっていましたが、朝ごはんを食べてから何も食べていないことに気がきました。みさきちゃんのおなかグーとなりました。「おなかすいた」
- ② みなとくんがリュックの中から、「パン、ひとつならあるけど」と出してきました。それを見て、「食べたい」とつぶやくみさきちゃん。
- ③ でも、ふと周りを見回すと、「おなかすいた」と泣いている赤ちゃん、「何か食べたいよ」とぐずっている小さな男の子、何も食べ物がない女の子などがいます。みさきちゃんはそれをみて「けど、どうしよう」と困っています。そんなみさきちゃんに対してみなとくんは「〇〇〇〇〇」

▶ セリフの例 (行動)

「ひとつしかないんだけど、どうしよう」
 「みんなで分けられるかな」

▶ 発問例

- ・ みなとくんの立場だったら、どうしますか？
- ・ ひとつのパンをどのように分けますか？

■ 教訓シートの説明



▶ 災害直後は、食べ物が不足する

- ・ 地震や津波で道路や橋が壊れると、物を運ぶことが困難になります。
- ・ 避難所によっては、最初の支援物資が届くまでに何日もかかる場合があります。その間、避難している人たちは、持っている食べ物を分け合って、しのがなければなりません。

▶ 持ち寄った食べ物を分け合って乗り切る

- ・ 誰もが、のどが渇き、おなかですいています。そんな時、自分だけおなかがいっぱいなら、他の人はどうでもいいと思うでしょうか。
- ・ 災害時はみんながたいへんな時です。自分のことだけでなく、他の人のことも考えて、分け合うという気持ちをもちましょう。

■ 東日本大震災の教訓

被災した範囲が非常に広がったということもあり、支援物資が届くまで何日もかかった地域がありました。そのような中、「持っていた水をひと口ずつ回し飲みした」「パンを4分の1切れずつ食べた」「お菓子を細かく分けて食べた」「おにぎりを雑炊にした」などして、飢えや渇きをしのいだ人たちもいました。また、「比較的被害の少ない地域の人が食べ物を持ってきてくれた」「周りの人に話して、乳児とお母さんに優先的に配った」など、みんなで協力したという話もありました。